

第 66 期（平成 27 年度）事業の概況

1. 会 員

会員数は、平成 27 年 12 月 31 日現在、名誉会員 4、個人正会員 1,786、団体正会員 363（408 口）、学生会員 201 の計 2,354 であった。理事会・会員委員会を中心に会員数の増強に努力し、個人正会員 98、団体正会員 11（11 口）、学生会員 108 の新入会・復会を得たものの、個人正会員 162、団体正会員 18（18 口）、学生会員 142 の退会があり、名誉会員 1 のご逝去とあわせて前年同期に比べ計 106 が減少した。

2. 会 計

当初予算は、平成 27 年 1 月末の会員数、消費税増税と景気の動向などを考慮し、前年より約 181 万円収益減、約 50 万円費用増とした。

これに対して、受取会費は予算額の 100.3%となり概ね予算どおりであった。受取会費のうち、団体正会員会費は予算額の 102.1%と上回り、個人正会員会費は予算額の 98.0%、学生会員会費は予算額の 97.1%と下回った。一方、前年に引き続き各事業の活性化を進めた結果、事業収益は予算額の 106.1%となった。事業収益のうち講演大会収益、学術討論会収益、会誌発行収益、部会収益は予算額を上回り、展示会収益は予算並みであった。セミナー事業では、収益は目標に達しなかったが、会場費などの費用節約を図り、当期経常増減額は予算額の 89.7%であった。

このような状況の下で、前年に引き続き徹底した費用節約に努めた。特に講演大会事業では、開催大学のご協力により会場費を大幅に節約することが可能となった。また、各支部が支部交付金の段階的削減に対応し費用節約を行ったことにより支部事業の費用は予算額の 79.9%となった。結果として全体の経常費用は予算に対して 98.6%であった。なお、部会事業は、収益・費用ともに予算額を上回った。

以上より、当期経常増減額は 18,610,123 円と前年度から 5,004,534 円増加し、予算額の 164.9%となった。結果として、当年度末の協会全体の正味財産は 45,932,535 円となった。正味財産のうち基本財産への充当額は 4,388,000 円、特定資産への充当額は 7,570,795 円であった。

3. 講演大会等

講演大会は、春季（第 131 回：関東学院大学 横浜・金沢八景キャンパス、3 月 4 日～6 日）及び秋季（第 132 回：信州大学 長野(工学)キャンパス、9 月 9 日～10 日）の 2 回開催され、両大会の合計発表件数 409 件、参加登録者 1,019 名であった。シンポジウム及び武井記念講演会は聴講者も多く、大会の活性化に寄与した。また、春季大会から講演要旨集として CD-ROM 版を配布し、希望者には冊子版を有償で提供した。

春季大会において「第 21 回学術奨励講演賞」を 10 名に授与した。秋季大会においては、「第 17 回優秀講演賞」受賞者 3 名を、「第 4 回学生優秀講演賞」受賞者 4 名を選考し、第 133 回講演大会において授与する予定である。

第 72 回表面技術アカデミック研究会討論会として「“洗浄のしくみ”を考える－製品の品質や歩留まりに大きな影響を与える洗浄を討論する－」（東京理科大学 森戸記念館、11 月 24 日）を開催し、参加者は 48 名であった。

4. 会 誌

12 テーマの小特集及び特集を企画し、年間 12 号の会誌「表面技術」を発刊した。ページ数は総計 678 ページ、掲載論文は、研究論文 22 件・技術論文 6 件・ノート 4 件・速報論文 9 件であった。

また、J-Stage [科学技術情報発信・流通総合システム；(国研)科学技術振興機構]には、「表面技術」の前身誌である「金属表面技術」及び「現場パンフレット（後改称：実務表面技術）」の創刊号から第 65 巻(平成 26 年)12 号まで掲載している。なお、3 月より J-Stage のオンライン投稿審査システムの運用を開始した。

5. セミナー

セミナーを 6 回開催した。春季実習セミナー“めっき液の分析と管理”（横浜市工業技術支援センター、5 月 21 日）のほか、“表面処理基礎講座（Ⅰ）”（早稲田大学 西早稲田キャンパス、6 月 18 日）、“めっきプロセスの基礎と評価実習”（東京理科大学 野田キャンパス、8 月 3 日～4 日）、“ドライブプロセスの基礎と薄膜作製”（千葉工業大学 津田沼キャンパス、8 月 25 日）、“日本のものづくり産業の繁栄と衰退から学ぶ”（早稲田大学 西早稲田キャンパス、10 月 20 日）、“表面処理基礎講座（Ⅱ）”（早稲田大学 西早稲田キャンパス、11 月 25 日）を開催した。参加者の合計は 240 名であった。

6. SURTECH

“SURTECH 2015—表面技術要素展”は、主催：本会・日本鍍金材料協同組合・ICS コンベンションデザイン、後援：全国鍍金工業組合連合会・日本表面処理機材工業会、特別協力：材料技術研究協会・日本塗装機械工業会・日本塗装技術協会・日本熱処理技術協会により、“nano tech 2015（国際ナノテクノロジー総合展・技術会議）”など 13 の展示会と同時開催した（東京ビッグサイト、1 月 28 日～30 日）。出展社（機関）は、57 社 101 小間で前年度を上回り、特別企画展示「表面処理 あらたな発見～ひろがる可能性～」では、我が国のめっき加工業を牽引するめっき専門社の出展や「めっき実演コーナー」との相乗効果により多くの来場者を集めた。全体の来場者は 47,649 名であった。

7. 国際交流

平成 28 年 9 月 20 日～22 日に中国/China National Convention Center（北京）にて開催される INTERFINISH 2016（第 19 回表面技術国際会議）へ Co-Organizer として協力準備に入った。また、INTERFINISH 2020 の日本開催に向けて準備を開始した。

8. ISO 規格検討専門委員会

国際標準化機構（ISO）の TC 107 部門（金属及び無機質皮膜）の国内審議団体として、特別委員会の中に ISO 規格検討専門委員会（兼務：ISO/TC 107 国内対策委員会）を置き、国際規格の制定などに協力した。また、平成 29 年 1 月 16 日～20 日、ISO/TC 107 第 29 回総会の日本開催（柏の葉カンファレンスセンター）の準備に入った。

9. JIS 規格検討専門委員会

特別委員会の中に JIS 規格検討専門委員会を置き、JIS Z 2371（塩水噴霧試験方法）改正のための検討を進め、6 月 22 日に公示された。また、日本規格協会による JIS Z 2371 規格説明会の開催に協力した。

10. 表 彰

協会賞 1 名、功績賞 2 名、論文賞 1 件、技術賞 1 件、進歩賞 1 名及び技術功労賞 2 名を表彰した。

11. 表面処理団体協議会（表団協）

本会と全国鍍金工業組合連合会、日本表面処理機材工業会の 3 団体で組織する表面処理団体協議会は、「表団協／産官学合同会議」を開催し、各団体での課題などについて情報交換した。また、第 26 回表団協セミナー（東京都中小企業振興公社、11 月 13 日）を開催し、参加者は 37 名であった。

12. 支 部

北海道・東北・関東・中部・関西・九州の各支部は、それぞれの地域特性に対応した諸活動を活発に行った。特に、関東支部は第 132 回講演大会の成功に貢献した。

13. 部 会

本期に活動している部会は以下のとおりである。

- ① ライトメタル表面技術部会
- ② めっき部会
- ③ 材料機能ドライプロセス部会
- ④ 熔融金属表面プロセス部会
- ⑤ ウェットプロセス研究部会
- ⑥ 金属のアノード酸化皮膜の機能化部会
- ⑦ 溶射・ライニング部会
- ⑧ 表協青年経営技術懇話会
- ⑨ 表面技術環境部会
- ⑩ 表面技術とものづくり研究部会
- ⑪ 表協エレクトロニクス部会
- ⑫ ナノテク部会
- ⑬ 高機能トライボ表面プロセス部会
- ⑭ 将来めっき技術検討部会
- ⑮ 環境および機能性に関する塗料部会

14. その他

- 1) 常務会の下に「規程類の整備作業小委員会」を設置し、規程類の見直しを行った。
- 2) 支部長会議を 2 回開催した。
- 3) 部会代表幹事による部会懇談会を開催した。
- 4) 2020 年の創立 70 周年記念事業準備委員会を立ち上げることとした。